

糖尿病入門

Diabetic NephropathyとDKD

的場圭一郎¹⁾

Keiichiro Matoba

宇都宮一典²⁾

Kazunori Utsunomiya

東京慈恵会医科大学内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科 講師¹⁾, 主任教授²⁾

Key Word diabetic kidney disease, diabetic nephropathy, アルブミン尿, GFR

はじめに

糖尿病患者の増加とともに、糖尿病腎症を有する患者数は世界的規模で増加している。我が国においても1998年以降、糖尿病腎症は慢性透析療法導入原疾患のうち第一位であり、日本透析医学会報告による

と2016年末の統計調査では38.8%を占めている。

糖尿病腎症から慢性透析に移行した患者の生存率は、他の病態に起因する腎不全患者と比べて著しく不良である。英国で行われた大規模臨床試験であるUKPDS (UK Prospective Diabetes Study) によると、腎症を有する糖尿病患者

の死亡率は腎症のステージ進行にともなって増加し、腎不全期では年間実に20%近い患者が主に心血管疾患によって死亡している(図1)¹⁾。末期腎不全と心血管疾患の合併は医療経済の大きな圧迫要因となることから、糖尿病腎症の克服は国と学会、医療関係者が連携して取り組むべき喫緊の課題である。健康日本21においても糖尿病腎症による新規透析導入患者の抑制が数値目標として掲げられており、2016年には日本医師会と日本糖尿病対策推進会議、厚生労働省の三者によって連携協定が締結され、この取り組みを全国で展開するための「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」も策定された。

一方で近年、糖尿病性腎臓病 (diabetic kidney disease; DKD) という疾患概念が提唱されている。これは糖尿病治療の進歩によって

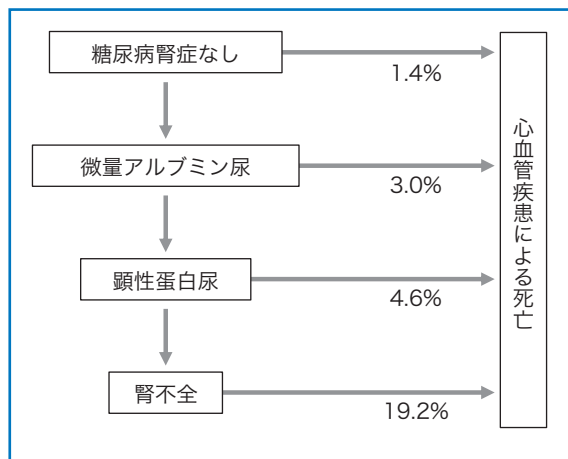


図1 糖尿病腎症の年次死亡率 (UKPDSより)
(文献1より引用)